

ワンちゃんの 老後の生活ケア講座

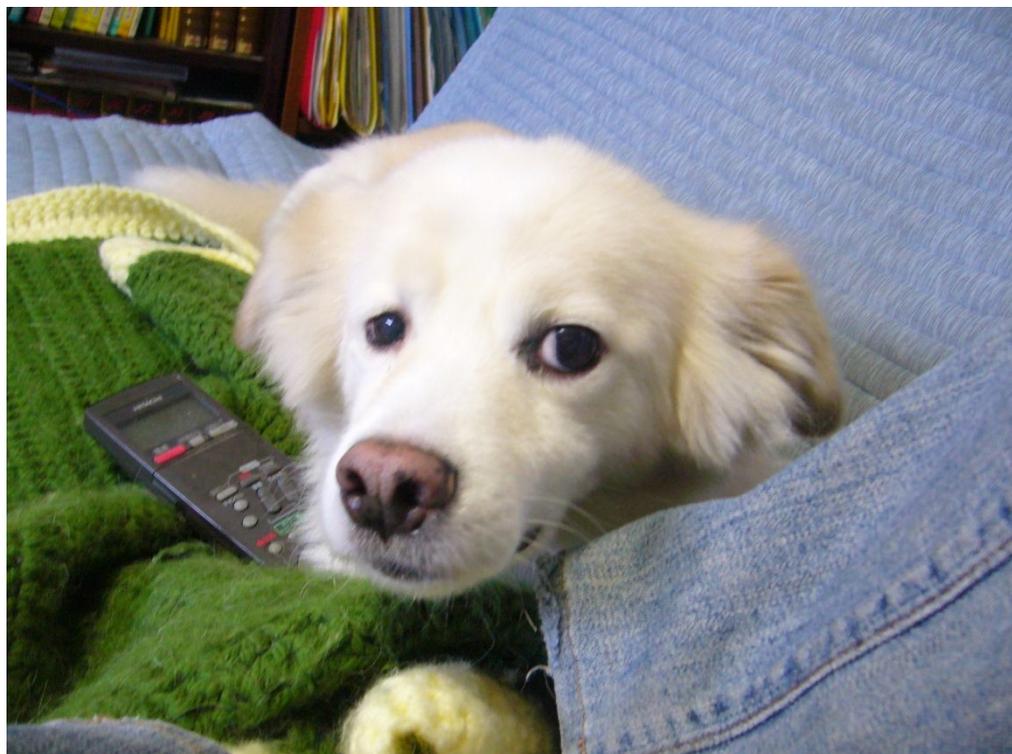


清水動物病院
獣医 加藤 暁子

始めに・・・

健やかな老犬生活のカギは、飼い主さんがおうちのワンちゃんの変化に「気づいてあげる」ことです

。



ワンちゃんの老化のサイン

- 白髪が目立ってくる。
- 耳が遠くなる。
- 後ろ足が弱ってくる。
- 立ったり座ったりにかかる時間がかかる。
- 物にぶつかるようになる。
- 疲れやすくなる。
- 目が白くにごる。
- イボができる。
- おもらしをするようになる。



etc...

寝たきりを防ぐために・・・

☆筋力キープの大切さ☆

- 年だから・・・、といって散歩や運動を減らすのはNG。
- 運動をやめると、血液循環が悪くなったり、筋肉が落ちていってしまう。
- 人でも老いてもそれなりに運動している人が元気なように、ワンちゃんにも同じことが言える。



高齢犬のお散歩

- オーダーメイドのお散歩スタイル
- お散歩の前のウォーミングアップ
- 無理はしない
- 水分補給を心がける
- 途中で遊びを取り入れる



脳に刺激を

- 自然と触れ合う
- 友達犬に会う
- ライバル犬に会う
- 子犬と会う
- 趣味を持つ



健康ごはん

- シニアフードに変える。
- 脂肪分の多いものは与えない。
- サプリメントを加える。

例：グルコサミン(関節保護)

DHA・EPA(ボケ予防)

ベジタブルサポート(栄養補助・肝臓疾患)

コエンザイムQ10(抗酸化作用)

マコモ(免疫力増強)

etc...



快適な住まい

- 室内飼いがお勧め。
- 家族の姿が見れて声が聞こえる場所に、専用スペースを作ってあげる。
- 安心して眠れるベッドを作ってあげる。
- サブスペース(愛犬が自由に移動できる、別のスペース)もを作ってあげる。
- 模様替えするときは注意。
- 家の中の危険ゾーンに注意。



危険ゾーンの解決策

- 床

→滑り防止に、ラグやタイルカーペット、コルクカーペットを敷く。

- 段差

→ステップやスロープを付ける。

- 階段

→転落防止に、ペットガードなどの通れないようなフェンスを置く。

- 角や出っ張り

→エアークッションやタオルで覆う。



介護について

- 大事ななのは、**がんばり過ぎないこと**。

日常の暮らしとうまく折り合いをつけながら、完璧な介護ではなく、**がんばらずに続けられる「手抜き介護」**を目指しましょう。

ママが明るくなると、ワンちゃんも元気になってくる。

介護の心構え

- どんなお世話もまずは**声かけ**からスタート。
（特に目や耳が不自由なコの場合→いきなり触るとびっくりしてしまうので、体に触れる前に一声かける、臭いをかがせる、顔を見せるなどして、サインを出してからお世話をスタート）
- 愛犬との**心の交流**を大切にする。
- 介護グッズは手の届くところに**ひとまとめ**する。
- 困ったときは、ホームドクターや同じように犬を介護している人に**相談**してみる。

介護グッズの例

タオル、ペットシーツ、水やご飯を与えるシリンジ、消臭剤、ドーナツクッション etc・・・

介護のコツ

- 愛犬の状態に合わせた介護方法を見つける。
 -
- 身近にある便利グッズを活用。
- 生活リズムをつかむ。
- 信頼できるホームドクターをもつ。
- 治療できるものかを調べて適切な対処を。
- 腰痛には注意。(特に抱き上げるときは、中腰の状態から無理に持ち上げずに、しゃがみこむかひざをつくなどしてから動作に入ると腰に負担がかかりにくい)

介護グッズの例



おむつ



保護バンド



肘あてパット付き服



ベッド



下半身補助具



お散歩カート



スロープ

歩行の介護

- 歩行時にふらつく

→ 胴輪を使って、転倒防止しながら歩かせる。(リードを短めに持つと良い)

- 後ろ足が踏ん張れない

→ サポートグッズを使って歩かせる。

- 前足も後ろ足も踏ん張れない

→ 抱っこして移動する。



排泄の介護

- 室内排泄へ移行する。
- 寝床の近くにトイレを用意。
- 排泄のポーズをとるのが難しいコ
→ 後ろから腰を支えてあげる。
- おもらしをしてしまうコ
→ おむつを利用する。
- 寝たきりのコ
→ 寝床にペットシーツを敷いておく。



室内排泄への移行法の例

- ①外で排泄を始めたなら、「ワンツー、ワンツー」などの指示語をいう。
- ②①を何度か繰り返したら、排泄のタイミングに外で指示語を言い、指示語で排泄できるようにトレーニングする。
- ③室内で指示語を言い、排泄ができたならたくさんほめて、散歩へ。

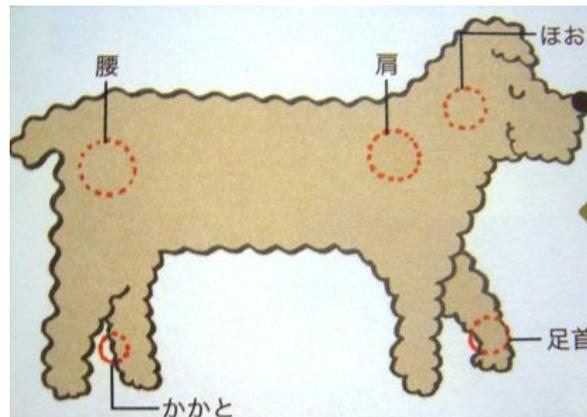
食事の介護

- 下を向いて食べるのが辛そうなコ
 - 食器を高くしてあげる。(わんわん御膳をつくる！)
- 立って食べられないコ
 - 上体を起こしてor伏せの姿勢で食べさせる。(食道炎予防)
- 固いものを飲み込みにくいコ
 - フードをやわらかくする。



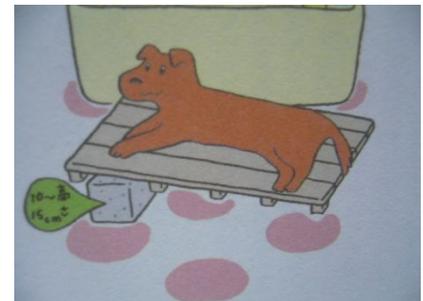
とこずれの介護

- 寝たきりになったコにはやわらかい寝床をつくる。
(例: 低反発マット、気泡シートを重ねた寝床)
- 寝たきりになったコはときどき寝返りをさせる。
- 床ずれの徴候が出てきたコはドーナツ枕などを使う。
- 床ずれになってしまったコは治療し家庭でのケアを始める。



入浴の介護

- 滑りやすい浴室の床には**バスタオル**を敷いておく。
- **体の弱い部分をサポート**しながら洗う。
- 立ってられないコは部分浴をさせる(洗面器やたらい、ベビーバスを使用)。
- 寝たきりのコの部分浴は、傾斜をつけたすのこなどの上に寝かせてやると洗いやすい。
- お風呂に入れないときは、体をふいてリフレッシュ。
(特に**目・耳・鼻・口・生殖器・肛門の汚れ**をチェック)



痴呆について

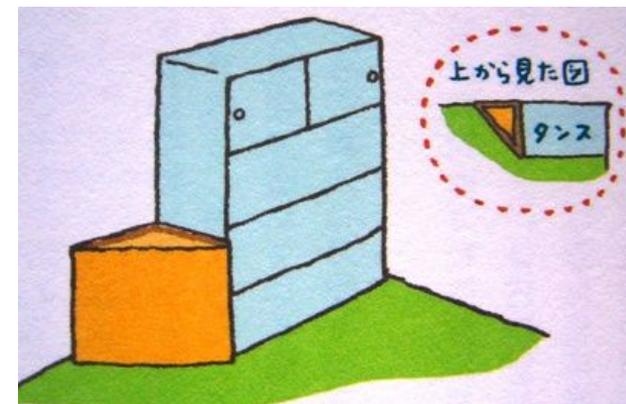
- 高齢の日本犬のコで特に多い。
- 若いうちから「ボケ予防の生活」を実践すると良い。
- 症状が現れても、あわてずに、明るく穏やかな気持ちで接する。

ボケ予防の生活術

- たくさん話しかける。
- スキンシップをはかる。
- 散歩中に刺激をプラスする。
- 子犬を迎える。
- DHA、EPAを摂取。
- ママが明るくなって改善した例も。

クルクル回る、後退できない

- クルクル回る→目を離すときは、**バスマットでつくる円形サークル**(円の直径は体長の1.5倍以上が目安。)に入れる。
- 隙間にはまって後退できない→はまってしまいそうな家具の隙間を作らない。隙間をやわらかいものや、三角柱にした段ボールなどでバリアード。



夜鳴きをする

- 本当に鳴く理由(体の痛みや寒さなど、体調不良や環境への不満)はないのかを見極める。
- 体内時計を修正する→日光にあたる。日中は日向ぼっこ、散歩や室内遊びで運動する。
- 寂しがって鳴いているなら抱いてあげる。
- 外に連れ出して、少し歩かせてみる。
- DHAやGABAに改善効果がある場合がある。
- やむをえない場合、鎮静剤などの薬を試してみる。

おもらしをする

- ボケからきたおもらしは、叱っても効果は無く、新しい場所をトイレとしてしつけ直すのも無理。
- 高齢になってトイレが近くなり、間に合わずにおもらししてしまった場合は、トイレを寢床の近くに設置したり、タイミングを見てトイレに連れて行ったり、体を暖かく保つことで改善することも。
- コントロールが難しい場合は紙おむつをはかせる
- 寝たきりになったらペットシーツを敷く。
- ワンちゃんの快適のため、紙おむつもペットシーツも、汚れたらすぐに取り替える。



異常に食べる

- 一日の食事回数を増やして食べたい気持ちに応じてあげる。
- 低カロリーのおやつをあげる。

攻撃する

- 根っこにあるのは不安感→急に体に触れない、優しく声をかける、痛がるところに触れない。
- アロマセラピーなどを試してみる。

老犬生活にうるおいをプラス！

- まねっこ遊び
- かくれんぼ
- 手作りごはん・おやつ
- お出かけ
- アロマテラピー
- マッサージ
- お灸

etc・・・



ボディケア

- ブラッシング
- 耳掃除
- 目の周りのケア
- 肉球のケア
- 爪切り
- 歯磨き



老犬に多い病気について



歯周病

- 歯についた歯垢が歯石（食べかすと細菌のかたまり）となって、細菌感染が広がり、さまざまな悪影響をもたらす。
- 口が臭い、口が痛そう、よだれが増える、歯石がついている、歯茎が赤いといった症状。
- なによりも普段からの歯のケアが大事。



白内障

- 目の水晶体が白く濁り、ものが見えづらくなる病気。
- 目が白く濁ってきた、よくものにぶつかるなどといった症状。
- 進行を遅らせる目薬やサプリメントがある。根本的治療は、水晶体置換手術。



心臓病

- 特に多いのは、僧帽弁閉鎖不全症。
- 初期は疲れやすくなった、散歩に行きたがらない、咳をするなどといった症状。
- 内科的治療（心臓に負担をかけないように悪化を防止するお薬など）が主。その他、食事内容や気温変化に気をつける。

子宮蓄膿症

- 子宮内に感染が起きて膿がたまってしまう病気。
- 多飲多尿になる、食欲がなくなる、膣から膿が出るなどの症状で、進行すると死に至る。
- 早期の外科的切除が大事。
- 避妊手術で100%予防可能。



前立腺肥大

- 男の子で、去勢していないと将来的になりやすい。
- 肥大した前立腺が、尿道や直腸を圧迫して、おしっこや便が出にくくなる症状。
- 薬で治しても再発しやすいので、根本的治療としては、去勢手術を行う。
- 同じ症状でも前立腺癌の場合もあるので注意。

腫瘍

- 比較的多いのは、乳腺腫瘍、精巣腫瘍、肥満細胞腫、口腔内腫瘍など。
- 早期発見がポイント！
 普段から口の中や皮膚のチェック、便や尿、元気食欲の状態を把握し、異常を感じたらすぐご相談ください。

関節炎

- 足をかばう、立ち上がるときにもたつく、足がふらつく・・・などといった症状。
- 予防として、肥満防止、適度な運動、サプリメントでグルコサミンなどの補給など。
- 治療として、非ステロイドのお薬、サプリメントなど。

病気予防・早期発見のポイント

- 毎日ボディケアで健康チェックをする
- 定期的な健康診断
- ワクチンや薬で予防できる病気は予防する
- なりやすい病気の知識をつける



最後に・・・

- 「老いてますますかわいいわが子」
- なりよりも、存在を認められ、愛されることが一番の幸せ。



ありがとうございました。

